としょかんのあの人にインタビュー！

第五回 小林分館長

今回はわかたけ図書館分館長の"小林さん"にインタビューしました。

イ＝インタビュアー
小＝小林さん

イ「よろしくおねがいします。お名前は？」
小「小林真志です」
イ「いつごろから、わかたけ図書館で働いていますか？」
小「五年前だからね～、平成十五年」
イ「他の図書館と違うお勧めなことは、ありますか？」
小「地域会館なので、小さい子や、小学生たちの名前を覚えてフレンドリーになれる！」
イ「趣味を教えてください」
小「映画鑑賞」
イ「小さいころの夢は何でしたか？」
小「夢はね…、弁護士」
イ「好きな花は何ですか？」
小「花はー、ストレリチア。極楽鳥花とも言う。南の国に咲いて、とんがってる花です」

イ「マイブームは何ですか？」
小「はやってることは～、旅行かな」
イ「ズバリオススメの本を一冊教えてください」
小「映画を観たから、『東京タワー』。リリー・フランキーの」
イ「最後に利用者の方へ一言」
小「楽しくて、おもしろい本がたくさんありますので、頻繁に借りに来てください」

小林分館長、突然のインタビューに答えてくださり、ありがとうございました☆

小林分館長の似顔絵です

心理テストの答え

①の心理テストでは…あなたのHタイプがわかっちゃう！

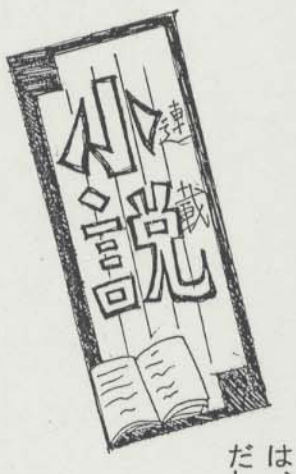
Aを選んだあなた
かくれHタイプ。Hな話をこっそり見たり…。

Bを選んだあなた
明るいHタイプ。けっこう大胆かも。

②の心理テストでは…素直度がわかっちゃう！

Aを選んだあなた
人をうたがうことのない素直な性格。

Bを選んだあなた
ひねくれ者だけど、何でも自分で判断しようとする態度はえらいっ！



神様のアシアト　第五回

オレンジ色の空がきれいに輝いている。その中でひときわめだつ、丸いオレンジの球体が山の上にちょこんとのっていた。

「明日も晴れるなあ。」

そんなことを思いながらいつもシャッターがしまっている電気屋の前を横ぎった。

普段は人がまったくと言っていいほど少ない商店街の通りだけれど(昔はそれなりにぎわっていたらしい)、今日は近くの神社でお祭りがあるので色とりどりの浴衣を着ているひとがたくさん歩いている。お母さんの手をひっぱりながらうれしそうにあるいている子や四、五人くらいの友達と大声で話している人など、みんな遠くから聞こえるおはやしの音に吸い込まれるように同じ方向に向かって歩いていた。

商店街をぬけ、地震がきたら今にも倒れそうな駄菓子屋の前を通り、畑が広がっているほうへと近づいていくと、ある山につづく入り口の前で足がぴたりと止まった。いつもなら普通に前を横ぎっていくのになぜか足が止まった。

「熊が確かこの山から来たんだっけ。」

早く家に帰りたいはずなのに私の足はコンクリートにくっついたようにはなれない。それどころか体は家の方向ではなく、山の入り口の前にいつのまにかくるんと向きを変えていた。

「久しぶりに行ってみようかな。」

熊に会いたい好奇心はないのに(むしろ会いたくない)、なぜかそんな感情があふれでた。それと同時にぴったりとくっついた足がはなれると、ゆっくりと歩きだした。

これからすべてが始まるとは、わからずに一歩ずつ歩きだした。

(続)

君のために　第一回

「大きくなったら結婚しようね。」
「うん♪」
今考えるとこの頃の自分は凄いと思う。自分の気持ちがこんなに素直に言えるこの頃の自分が…。
――十三年後…
「彰～！！」
俺の耳元で響く樹里の声。
「し～っ…樹里、そんなに大きい声で叫ばなくてもいい！頭に響くだろ！？」
「頭に響くって、彰は二日酔いですか？」
「んな訳あるか！俺は高校生だ。」
目の前には髪を長く垂らした樹里の姿。十三年前よりも大人の女性に近づいてはいるが、イマイチあの頃の面影は抜け切れていない。背は伸び手足も細くて長い。
「で、俺に用事があるんじゃないの？」
「ん？…あ、先生が放課後、臨時生徒会開くから集まれって。」
「ふ～ん…。」
毎週定例会を開いているのに臨時で開くということは、よっぽどの事に違いない。
「面倒だな…。」
「会長がそんな事言って良いの？」
そう、俺は会長という頂点の地位に就いている。そして、樹里は俺の一つした、副会長に就いている。
「誰のせいで会長になったと思ってるんだ？」
樹里に生徒会長へ立候補しろと脅され、まさかとは思ったが当選。不運にも会長の座に就任してしまった。
「私のせいって言いたいの？選んだのは全校生徒でしょ！」
確かにそうだが、開き直っている樹里が少し憎らしく見えた。
「そもそもお前が…」
「まあまあ…彰も少し落ち着けよ。」
傍に居たクラスメートの拓真が仲裁に入って来た。
「拓真君は優しいな～♪誰かさんと違って。」
樹里は拓真の後ろに回りこみ盾にした。
「樹里ちゃんも、あんまり彰を怒らせないようにね？」
「無理だな…。」
俺は小さな声で囁いたが、樹里には聞こえていたらしく腹部に拳がめり込んだ。俺に一発決めた後、樹里は教室から出て行った。

(続)

編集後記

受験生よ！
Good Luck!

今回は、出張インタビューをしてきました。次号も参加出来たらいいな。 R

はじめての新聞作りでした。本のしょうかいなどはすおもしろいかなたでいうかな。 S

はじめてイラストを書いて楽しかったです。 T

今回は一人での作業だったので皆と会えなくて少しさんねん…。 M

全員そろってできる日が楽しみです。

暑いよー暑いよー今、おなかがいっぱいです。そろそろチャリーの名前を変えようか悩んでおります。新メンバーばんざい チャリー

地球の温暖化の影響で暑いです不ぬみんな節電&ムシ対策をわすれないようにがけようね！新メンバーも入り、にぎやかになりました。ネタがむずかしかったです。でもよんでくれたらうれしいです。 頑張ります。 来次号も

新メンバーも加入して、ますます進化しています。新しい小説も始まり不安もありますが頑張ります!! 連

少人数でがんばりマシタ！ M